



公開型選択制研修 ～能力に応じた研修を自ら選択する時代へ～

	都道府県名	滋賀県
	所 属	湖南広域消防局 東消防署
	氏 名	片 山 直 広
	職名・階級	係長 ・ 消防司令補
	指導救命士養成研修 受 講 時 期	令和元年度 指導救命士養成研修 第2期 修了

1. はじめに

救急出動件数は年々増加し、更に、処置拡大等により活動が複雑化した影響もあり、現場活動時間は過去に比べて延伸しています。そのため、教育にかけられる時間も、過去に比べ減少していることから、今の時代、効率的かつ効果的に成果の上がる研修を計画する必要があります。能力は知識と経験に大きく依存することから、研修の効率化を図るために、役職別研修を行なっているところも多いと思います。とは言え、役職と能力は必ずしも比例しているとは限りません。役職に応じた不可欠な能力や知識は存在しても、それらを自分自身が学ぶべきかどうかについては、個人の能力が左右します。湖南広域消防局では、平成29年度から救急業務研修を行っています。救急業務研修とは、救急業務の高度化と病院前救護体制の充実を目的に、全救急救命士を対象として行う研修で年2回実施しており、令和4年度下半期は、受講する科目を自ら選択し決定する、選択制としました。また、多種多様な考え方を共有するため、隣接する大津市消防局にも研修に参加いただきましたので、研修内容の一部を紹介します。

2. 主な研修内容

研修内容については、事前に受講してみたい研修を全救急救命士にアンケート調査した上で決定し、受講希望の多い6つをカリキュラムとして組みました。

講師は、職歴に関わらず、研修内容から、適任である者を指導救命士が指名しました。

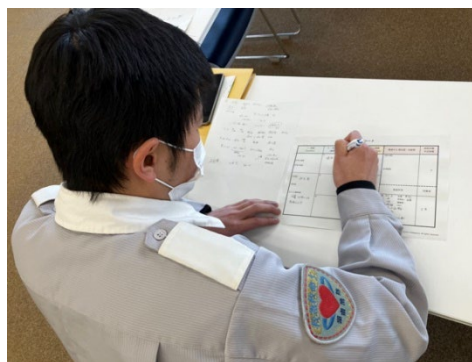
研修時間は概ね1時間で実施できるものとし、可能な限り受講者が能動的に考えて進められるアクティブラーニング型の研修とし、以下の6つの研修を実施しました。

(1) 病院交渉トレーニング

病院交渉する上で、どのように情報を整理し、相手に伝えると良いのかについて学びます。また、うまく伝える4つのポイントや、相手に情報を伝える3つの本質について学んだ後、想定役、交渉役に分かれて病院交渉のトレーニングを実施します。トレーニングを効果的に行うために、BKTシート（病院交渉トレーニングシート）を用いて、交渉内容を書き出すことで、内容を可視化し理解を深めます。



病院交渉トレーニングの様子



BKTシートを用いて交渉内容をまとめる様子

(2) 外傷対応訓練

個人の観察力、隊員間のコミュニケーションのスキルアップを目的に、観察結果から隊員間の情報共有を的確に行い、全身固定後の確認を適切に行います。外傷対応についての基礎手技を学び、個人のスキルアップができることを目指します。



隊で全身観察を実施



バックボードを用いたSMR

(3) 感染対策研修

感染経路と対策の基礎知識を学んだ後、3名1組で救急隊を編成し、ブラックライトに反応する専用液を塗布した訓練人形に対して、CPA対応活動を15分間実施します。その後、ブラックライトで汚染頻度の高い部位を把握することで、清拭が必要な部位を再認識し、感染防止対策に努める意識を向上させます。



CPA 想定訓練の様子



汚染状況をブラックライトで確認

(4) 分娩介助・NCPR 研修

基本的な分娩介助の基礎知識の座学を含めた実技訓練を行うことで、分娩介助の不安要素である経験数の少なさを補うものです。また、分娩後の対応として、NCPRの手技について学びます。



分娩介助訓練の様子



NCPR 訓練の様子

(5) 多数傷病者対応訓練

トリアージタグの運用方法を理解し、記入内容の重要性を理解した上で、必要項目の記入ができることを目的とします。トリアージタグの書き方を学んだ後は、3名1組に分かれて実技でトリアージタグを作成します。



トリアージタグに係る座学



トリアージタグ記載の様子

(6) 心電図研修

心電図に関する基礎知識および緊急性が高い心電図波形を再確認します。また、救急活動において心電図モニターを装着する場面は多くありますが、その結果を病態把握に繋げていけるよう学習を行います。



心電図に関する知識を習得する



心電図研修の様子

3. 最後に

災害への備えを考えると、「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身と家族の身の安全を守ることを言います。「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことをいいます。そして、市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助が「公助」となります。近年各地で甚大な被害をもたらす災害が多く発生しています。大規模災害が発生すれば、近隣消防本部と活動を行うことは必然的であるため、これからは「連携公助」を強固にしていかなければなりません。それぞれの組織が公開型の研修を行うことで、本部間でのネットワーク形成が自然と行われます。また、公開型選択制研修は、上達したいという欲求 (mastery : 熟達)、自分で決める (autonomy : 自主性)、研修の目的を理解する (purpose : 目的) が存在します。これらの頭文字をとってMAPと呼び、このMAPが存在するからこそ、創造的 (creative) な研修になり、それが個人、組織のレベルアップに繋がることから、指導救命士として、今後も公開型選択制研修を行い、病院前救護の質の向上を目指していきたいと考えています。

